営 農 技 術 情 報（第１号）

令　和　３　年　４　月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

目指せ！なのはな米1等比率95％以上!! ～「R3　JAなのはな米品質向上運動」実施中～

今年も高品質で美味しい「なのはな米」の生産を目指し、高温に打ち勝つ米づくりに努めましょう。
コシヒカリは**５月１５日を中心とした田植え**を基本とし、田植時期に合わせた計画的な育苗作業により、**健全な苗づくり**に努めましょう。

1. コシヒカリの育苗計画

消　毒	浸種開始	播　種	田植え	（育苗日数）	出穂期
4／7（水）	4／8（木）	4／19（月）	5／10（月）	（21日）	8／1頃
4／15（木）	**4／16（金）**	**4／25（日）**	**5／15（土）**	**（20日）**	**8／4頃**
4／23（金）	4／24（土）	5／2（日）	5／20（木）	（18日）	8／7頃

育苗日数が長く葉齢の進んだ老化苗を植えても、初期分げつの発生が少なく、出穂が早まる傾向が見られます！
育苗日数は**20日間以内**を目安としましょう。

2. 育苗スケジュールと作業内容

※細菌性病害対策として、育苗期間を通して目安温度より高温にならないよう注意しましょう！ **《換気の徹底を！》**

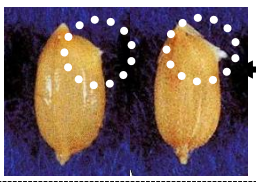
月 日	作 業	温度管理	作 業 管 理 の ポ イ ン ト
4/15	比重選 **種子消毒**	水温**10℃以上**を確保 （12℃が最適）	**①比重選で種籾を厳選　～病気や発芽不揃いをしっかり予防～** ・硫安による発芽障害を防ぐため、比重選した種籾は水洗いを行う。 **②種子消毒を徹底し病害の発生を予防（必ず化学農薬で消毒）** ・モミガードC水和剤２００倍液で２４時間浸漬する。 （種籾１０ｋｇに対し、水２０ℓ、薬剤１００ｇの割合とする。） ・水和剤は溶けにくいため、水は１５～２０℃のぬるま湯で必要量を準備し、よくかき混ぜる。 ・消毒中、種籾袋を２～３回上下に撹拌し、種子を完全に浸漬する。 ・消毒液の使用は１回限り（繰り返し使用しない）。
4/16	**浸　種**	水温**10～15℃**を確保	**③浸種は積算温度を十分に確保　～水温×日数＝積算温度100～120℃程度が目安～** ・**催芽を揃える**ため**水温は10～15℃**とし、籾容量の２倍の水に浸漬する。 （特に、浸種を開始した初日の水温確保（12～13℃）が重要！） ・２日に１回は水を交換し、酸素不足を防ぐ。 ・水温が上がり過ぎないよう日光が直接当たらない場所(日かげ等)に設置する。 ・水温が高くなり芽が伸びる恐れがある場合は、冷たい水に浸ける。 ※浸種期間の後半になったら必ず籾を確認し、芽が動いていたら浸種を終える。
	※浸種の開始を早めない！…冷たい水に長く漬けるのではなく、適温の水に10日程度しっかり漬けて積算温度を確保しましょう！		
4/24	催　芽	育苗器温度 **28～30℃**で 20～24時間	**④芽が伸び過ぎないよう、こまめにチェック** ・催芽をそろえるため、１日２～３回袋を反転させる。 ・均一に播種するため、種籾の水切り(脱水)は十分に行う。 （籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う。）
4/25	**播　種**		**⑤播種量はうす播き（乾籾 120g/箱）が基本** ・かん水量は、床土の表面に水がにじみ出る程度とする。 ・厚播き、ムラ播きに注意する。
	出　芽	育苗器温度 **30℃**で2～3 日	**⑥育苗器の温度は30℃が適温、こまめに温度や出芽状況をチェック** ・事前にサーモスタットの温度計測が正確なのか確認する。
4/28	搬　出 **緑　化**	葉焼け注意！	**⑦芽の長さが1cm に揃ったら搬出** ・搬出時には、覆土を落ち着かせるため、必ず**かん水**する。 ・約３日間被覆した後、緑化した後は速やかに**被覆資材をはずす**。 ・育苗ハウスのビニールを新しくした場合、光の透過率が高いので、温度管理に注意する。
4/30	**硬　化**	ハウス内温度 **昼：25℃以下** 夜：10℃以上	**⑧ハウス内の温度が25℃以上にならないよう換気を徹底** ・かん水は朝にたっぷりと行い、日中は床土の乾きに応じて行う。 （床土の種類によって水持ちや乾き方が違うので、床土を変更した場合は注意！） ・田植えの７～10 日前からは昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす。
		春は時々強い風が吹きます。ハウスの風対策は万全に!!	
5/15	**田植え**		

○比重選液の作り方の目安

種籾	比重	硫安（水10ℓに）
うるち	1.13	2.5kg
もち	1.08	1.5kg

種子消毒は確実に！

※早生・中生品種の浸種の目安
水温　浸種日数
10℃→10～12日間
15℃→ 7～ 8日間



○催芽の目安
ハト胸～2mm まで

○乾籾 120gの目安

芽出し籾容量	水切り後重量
200cc	150g

低温が予想される場合は搬出を見送るか、搬出時のかん水はせずに被覆資材で保温に努める。

かん水に用水を用いる場合は、ムレ苗に注意！

○育苗期間中の病害対策

対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	５００倍	５００cc/箱	播種14日後まで	２回以内
ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	５００倍	５００cc/箱	発芽後	１回

春の土づくり
～気象変動に強い稲体づくりは「土づくり」から～

高温に打ち勝つ米づくりのためには、強い稲体づくりが大切であり、その土台となる「根」を育てる「土づくり」が重要です。

管内で実施した土壌診断では、約６割のほ場で**珪酸やカリが不足**しています（図１）。

土づくり資材の施用や深耕による「春の土づくり」で、地力の向上に努めましょう。

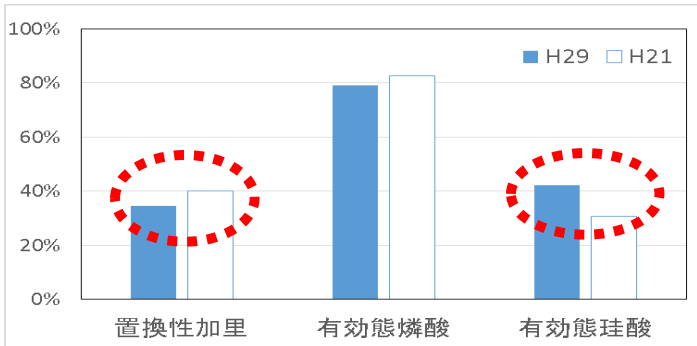


図1　土壌改良目標値を達成したほ場の割合
（JAなのはな管内 H29:159 地点　H21:150 地点調査）

1. 土づくり資材の施用

※昨秋施用していないほ場では、必ず施用しましょう。

・珪酸は稲の茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があるほか病害虫に対する抵抗性を高めるなど、収量・品質の向上に効果の高い成分です（図２）。また、近年、発生が増えているごま葉枯病は、珪酸分の他、カリ、鉄分含量などの低下により発生が増加します。**耕起前に土づくり資材を確実に施用**しましょう（表１）。

・腐植が少ない砂質や砂壌土等のほ場では、**発酵鶏ふんなどの有機物を積極的に施用**し、地力の維持や向上（カリ等の補給効果有り）に努めましょう。

表１　主な土づくり資材の施用の目安

資材名	施用量(10a 当たり)	特性等
珪酸石灰	100～200kg	葉や稈が丈夫になり、耐倒伏性や耐病性が向上
シリカロマン	60～100kg	溶出に優れた珪酸分が配合
シンキョーライトP	40～　60kg	根張りを促進し保肥力を高める
新アサヒニューテツ	100～150kg	珪酸の他、鉄、苦土等を含有（ごま葉枯病多発ほ場）
発酵鶏ふん	（春施用）　75～100kg	腐植含量を高め、カリ等も補給

※発酵鶏ふんを春に施用する場合は、基肥を窒素成分で１～２kg/10a 減肥する。
（例）Ｊコートコシヒカリ１号　（窒素成分 21%）
40kg/10a 施用の場合、30kg～35kg/10a 程度に減肥する。

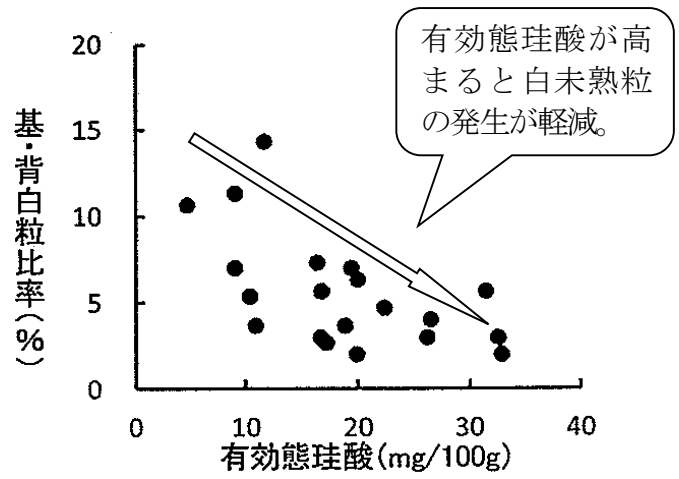
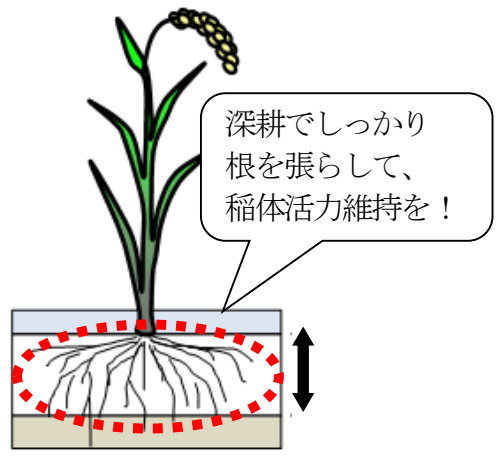


図2　有効態珪酸と基・背白粒比率の関係
（H25 県土壌分析結果）

2. 深耕の実施

・深耕によって作土層を深くすると、根圏が広がり、根が十分に伸びることができます。深く伸びた根は収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質の向上につながります。

・耕起の際は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さ20cmを目標に、**最低でも１５ｃｍ以上の確保**を目指しましょう。



令和３年 春の農作業安全運動：4月1日～5月31日
「見直そう！農業機械作業の安全対策」

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。農場や用水路の危険箇所の把握・改善や余裕をもった作業計画など、事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。

なのはな農協では、皆様に**電子メールによる営農情報の提供**を行っています。

情報提供内容
- 栽培管理情報
- 緊急的な気象情報と災害防止対策
- 緊急的な管理情報
- その他必要と思われる情報

【提供情報例】
春一番の作業として、まずは土づくりを行いましょう。
地力向上のため、昨秋に土づくり資材や発酵鶏ふん等の有機物を施用していないほ場は、必ず施用しましょう。
今後の育苗作業は、５月１５日を中心としたコシヒカリの田植えにあわせ計画的に行いましょう。

営農情報提供サービスへの登録はこちらから ☞

http://argo-navi.net/ja/mb_login.php